

令和7年度第6回 学びあい育ちあい推進審議会定例会要点録

令和8年2月18日(水)

出席委員	社会教育の関係者	
	委員	小野和歌子
	家庭教育関係代表	
	委員	細田雅美
	学識経験者	
	会長	長島剛
	副会長	田中優
	公募市民	
	委員	倉品みゆき
	多摩市図書館協議会	
	委員	高橋祥子
	文化財保護審議会	
	委員	横倉敏郎

出席職員	教育部長	小野澤史
	文化・生涯学習推進課長	垣内敬太
	社会教育・文化財担当課長	石山正弘
	公民館長	伊藤麻衣子
	図書館長	渡邊哲也

欠席委員 権藤委員、布施委員、西山委員

(開会時刻：14時00分)

議事録署名委員：細田委員

議事次第・配布資料

〔報告事項〕

1	第4次多摩市生涯学習推進計画中間見直し原案について	【資料 1】
2	「国登録有形文化財（建造物）川井家住宅主屋及び旧川井家住宅土蔵保存活用計画」について	【資料 2】
3	展覧会「重要無形文化財『木工芸』保持者 渡辺晃男の仕事」の開催について	【資料 3】
4	公民館事業進捗状況について	【資料 4】
5	令和7年度公民館等利用者懇談会の開催報告について	【資料 5】

〔連絡事項〕

1	第17回子ども読書まつり《ほんともフェスタ》の開催について	【資料 6】
---	-------------------------------	--------

会	長：	ただいまの出席委員は、7名である。定足数に達していることから令和7年度第6回多摩市学びあい育ちあい推進審議会定例会を開始する。会議録署名委員は細田委員に願います。
---	----	---

〔報告事項〕

1 第4次多摩市生涯学習推進計画中間見直し原案について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【資料 1】

会	長：	報告事項1「第4次多摩市生涯学習推進計画中間見直し原案について」を事務局より説明をお願いしたい。
文化・生涯学習推進課長：		<p>報告事項1「第4次多摩市生涯学習推進計画中間見直し原案について」を説明する。中間見直しにあたって、次の2点を行った。</p> <p>(1) 社会状況の変化やこれまでの成果等を踏まえながら、本計画の後期5年間を見据えた見直しを行うにあたり、市民の意識や考え方を反映するため、市民へのインタビューを実施した。</p> <p>(2) 国や東京都、市の動向及び市民の現状から抽出した現状と新たな課題等を踏まえ、24項目にわたる「個別施策」を中心に見直した。また、より適切な評価を行うために、成果目標や評価の手順について見直すとともに時点的な修正も行った。</p> <p>課題と改善の方向性としては、次の5点があげられる。</p> <p>(1) リカレント教育をはじめとした学び直しに係る情報収集と発信 【新規】</p> <p>(2) 増加傾向にある在住外国人等に対し、生活のために必要な日本語等を習得できる環境の整備 【拡充】</p> <p>(3) 障がい者が生涯学習に取り組みやすくなるための担い手の人材育成の推進 【新</p>

	<p>規】</p> <p>(4) 高齢者や障がい者、外国人等も含む多様な市民が、地域の活動に参加するきっかけづくりや活動の担い手として活躍できるようなサポート【継続】</p> <p>(5) 外部評価手法の見直し</p> <p>外部評価については、学びあい育ちあい推進審議会で行っていきことで従来の手法を見直している。</p> <p>令和8年～令和12年の後期5年間の取り組みについては、これまでの取組を継続的に進めていくとともに、社会状況の変化や市民インタビューから抽出した課題と改善の方向性に紐づく事業等を重点化し、取組と評価を進め、「学びあいがつむぐ“健幸”なまち」の実現を目指していきたいと考えている。</p>
委員：	<p>課題と改善の方向性の(2)の外国人について、子どももいると思うが、子どもについて学校では何をしているのか。</p>
文化・生涯学習推進課長：	<p>日本語の理解が難しい子どもに向けて、教育センターにおいて日本語指導教室を行っている。また、多摩市国際交流センターが担い手として、日本語をルーツとしない子どもたちの指導をする取り組みを行っている。今後もニーズとしては増えていく傾向にあると思うので、引き続きこのような対応を進めていく。</p>
教育部長：	<p>全校ではないが、多摩市国際交流センターと民間事業者にお願いをして、学校へ派遣してもらっている。学校現場では、タブレットを使って行うなど徐々に増えてきている状況である。教育センターの予算で派遣事業を行っているが、来年度はさらに予算を上げて実施していく予定である。</p>
委員：	<p>外国人が増えて、地域のコミュニティでのトラブルにならないように上手く取り組んでいってほしいと思う。</p>
副会長：	<p>外国人の問題について、資料1の8ページ「(質問1)あなたは、現在、生涯学習活動をしていますか。」で「外国人が参加してもいいか迷ってしまう」という答えがある。一方、(質問3)では「外国人住民と交流したい」と背反する意見が出ている。他の地域では非常に外国人問題が話題になっていることもあるのだが、多摩市ではどのようなになっているのか。我々はどう把握しておけばいいのか、ヒントになる情報があればお願いしたい。</p>
文化・生涯学習推進課長：	<p>市の取り組みとしては、昨年度「多摩市多文化共生推進基本方針」を制定している。外国人は、国の動向からみても増加傾向にある。多摩市においても1月1日現在で総人口14万8,000人に対し4,000人が外国人となっている。年々、300～400人程度増加している状況。外国人も地域の一員になってもらいお互いの違いを理解し合いながら、地域の中に入って活躍していただくことを方針として打ちたてたところである。国の補助金も使いながら日本語教室の実施や様々な多文化共生理解のワークショップ等に取り組んでいる。</p>
委員：	<p>この外国人4,000人の中で、小中学生ほどのくらいいるのか。</p>
文化・生涯学習推進課長：	<p>令和8年現在で、6～12歳が109人、未就学児が133人で、昨年度に比べて10%程度増加している。また、4,000人のうち、20代～40代で約7割を占めており、若い方が多くなっている。留学生と期間限定で就労している方も増加傾向である。</p>

委員 :	この109人は、多摩市の学校や他の学校に通っているのか。
文化・生涯学習推進課長 :	就学状況は詳しく把握していないが、概ね多摩市内の学校に通っていると思われる。
会長 :	大学でも外国人が増えている。日本人との交流もしているので、大学と連携していても良いのではないかと思う。
副会長 :	多摩市のホームページを見ると、去年の3月に「多摩市多文化共生推進基本方針」が策定されたとあるが、その中で在住者の51.8%が日本人の配偶者とある。おそらく、ご夫婦のどちらかが日本人で長い間住み、子どもも増えるという特徴があるかとみている。
文化・生涯学習推進課長 :	定住される外国人が増えてきている。昨年実施したアンケートでも「このまま多摩市に住み続けたい」と答えた方が半数近く、「当面は多摩市に住み続けたい」が40%となり、合わせて約90%の方から「住み続けたい」との回答を得ている。これに伴って、子育てされる外国人も増えている。
会長 :	外部評価の手法の見直しとあるがどう変わるのか。
文化・生涯学習推進課長 :	従来は、計画に携わった専門家の方と市民の方で外部評価を行っていたが、令和8年度以降については、庁内での内部評価の結果を整理したうえで示し、学びあい育ちあい推進審議会で外部評価をしていただきたい。具体的な方法については、事務局と調整をし、令和8年度に入ったところで外部評価の進め方を報告、協議させていただくので、よろしくお願ひしたい。

2 「国登録有形文化財（建造物）川井家住宅主屋及び旧川井家住宅土蔵保存活用計画」について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 2】

会長 :	報告事項2『「国登録有形文化財（建造物）川井家住宅主屋及び旧川井家住宅土蔵保存活用計画」について』を事務局より説明をお願いしたい。
社会教育・文化財担当課長 :	資料2「国登録有形文化財（建造物）川井家住宅主屋及び旧川井家住宅土蔵保存活用計画【概要版】」を説明する。10・11月にパブリックコメントを行い、19件4名の方からご意見をいただいた。また、補助金を受けるため東京都からの意見も踏まえ、原案として2月9日の教育委員会で最終決定した。国登録有形文化財（建造物）川井家住宅主屋及び旧川井家住宅土蔵保存活用計画は、資料2のとおり6章からなっている。今後は、市の公式ホームページに全編掲載予定なので、ご覧いただきたい。
会長 :	今後のスケジュールはどうなるのか。
社会教育・文化財担当課長 :	現在、この保存活用計画を基に、この場所を使って商売等活用をしてみたいという事業者とのヒアリングをしているところである。来年度には、活用に向けての改修の話を進めていきたいと考えている。今のところは、数社あたっているが、決定的にこの場所を使って事業をしたいという事業者からの手上げはまだない状況となっている。

3 展覧会「重要無形文化財『木工芸』保持者 渡辺晃男の仕事」の開催について・・・【資料 3】

会 長 :	報告事項3「展覧会「重要無形文化財『木工芸』保持者 渡辺晃男の仕事」の開催について」を事務局より説明をお願いしたい。
社会教育・文化財担当課長 :	「展覧会「重要無形文化財『木工芸』保持者 渡辺晃男の仕事」の開催について」を説明する。資料3のチラシをご覧いただきたい。多摩市で初めて人間国宝の方が誕生した。「木工芸」の渡辺晃男先生である。どのような作品を作ったのか、代表的な作品を直に見ていただきたいということで、4月23日から29日にパルテノン多摩市民ギャラリーにおいて展示を行う。4月26日には、渡辺晃男先生と多摩美術大学外館教授との対談とギャラリートークも予定している。
会 長 :	人間国宝は何人いるのか。
社会教育・文化財担当課長 :	現在、116人となっている。

4 公民館事業進捗状況について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【資料 4】

会 長 :	報告事項4「公民館事業進捗状況について」を事務局より説明をお願いしたい。
公 民 館 長 :	資料4「公民館事業進捗状況について」を説明する。資料4-1の中からピックアップしたものが資料4-2となる。1月6日(火)に「お正月デジログ運動会～デジタルゲーム×アナログゲーム～」を実施した。この事業は3年前から実施しているものだが、地域で遊びを広げたいということで、今回は「からきだ菖蒲館」で実施し、32名定員のところ28名参加と盛況であった。次に、昭和100年にあたり、「JAZZレコードを公民館ホールで聴く～みんなに聞いて欲しいこの1曲、この想い～ ジャズ喫茶 VITA へようこそ」として、1月12日にJAZZのレコードを流して聞くイベントを開催した。100名程度の参加があり、多くの方が楽しんだ。東京都主催事業では、「こどもデジタル創作体験事業(くりらぼ)」を12月26日・1月7日の2日間実施し65名の参加があった。この事業も人気のある事業となっているので、今後も東京都と調整をしていろいろなプログラムを展開していきたい。わがまち学習講座では、「地域とつながる“はじめの一步”～人生100年時代の“自分の活かし方”～」と題した講演会をパルテノン多摩で実施した。地域のつながりが希薄化するなかで、今後どのように自分の人生と地域が繋がっていくのかを東京大学の牧野篤先生にご講演いただき30名の参加があった。今後も、地域課題等を検討しながら事業展開を進めていきたいと思っている。
会 長 :	わがまち学習講座「地域とつながる“はじめの一步”～人生100年時代の“自分の活かし方”～」では、はじめの一步を刻んだその後は何をするのか。目的は何なのか。地域デビューして、地域で何かをプロデュースするような人達を育てていくということなのか。
公 民 館 長 :	文化・生涯学習推進課と協働推進室と公民館の3課で連携して行っている事業である。わがまち学習講座は、参加後に地域につながることを目的として開催している

		が、今回はどう地域とつながればいいかわからない方を対象として行っている。
委	員：	どれも良い企画だと思うが、背景や課題があってこれらの事業を決めているのか。どのようなことを根拠としているのか。
公	民 館 長：	いろいろな背景はある。最近、子どもを対象としたものが多いのは、公民館を知らない方が多いので、地域活動よりもまずは公民館を知ってもらい、公民館事業に参加したいと思う子どもたちや保護者が増えることに重点をおいている。大人の方に関しては、足を運んでもらい何かしらの学びにつながってもらいたいという思いがある。わがまち講座については、公民館のひとつの柱である地域活動の活性化で、地域とつながることが最終目標だと考えている。それぞれに背景やターゲット、目標を考えながら事業を企画しているところである。
委	員：	生涯学習のひとつの場として公民館があると思うが、生涯学習推進計画の企画とリンクしていくと報告事項1での生涯学習推進計画の評価にもつながっていくと思う。場がいろいろなことに活用されるのは良いが、限られた資源の中で、公民館がどういう場として存在するのかを再確認して、そこに基づいて企画をしていくと考えやすく、また評価もしやすくなると思う。
公	民 館 長：	公民館は社会教育施設だが、生涯学習は社会教育よりもっと大きいものとなる。社会教育は一般的に個人ではなくてつながりをもって学んでいくもの。社会教育施設である公民館としては、「集う・学ぶ・つながる」を促していける施策を考えていきたい。
委	員：	公民館事業進捗状況で、今年目標を入れそれに照らし合わせて、満たしていたかの評価を入れていくと我々の判断にもなるかと思う。
会	長：	公民館の事業進捗状況は、何を基準に話していいかが難しい。民間であれば人数のほかにコストも聞かれる。公民館職員がやっている仕事を市民に委ねていく比率がこれくらいに進んだとわかるような上手い伝え方はないかと感じる。価値がみえるような報告だと良い。

5 令和7年度公民館等利用者懇談会の開催報告について・・・・・・・・・・ 【資料 5】

会	長：	報告事項5「令和7年度公民館等利用者懇談会の開催報告について」を事務局より説明をお願いしたい。
公	民 館 長：	資料5「令和7年度公民館・TAMA女性センター・消費生活センター利用者懇談会の報告について」を説明する。市民の様々な学習や活動を支援する拠点施設として「より利用しやすい施設づくり」を目的として、公民館・TAMA女性センター・消費生活センターと団体相互の交流や意見交換を行う利用者懇談会を実施した。1月17日(土)に永山公民館ベルブホールで行い、14団体15人の参加があった。これまで行政対利用団体の対面式であったが、今年度は参加者のグループワークを中心とした意見交換のできる場として内容を変更し、これからのあり方を検討した。これまでと同じで団体の利用促進の意見が多かったが、グループ内では意見交換や交流が図られた。一方で、参加者が昨年同様で増えなかった。ポスターやチラシの配付はしたが、今後はより多くの方が利用時に目に入るような工夫を考えていき、参加者か

らより多くの意見をいただきたいと思っている。

〔連絡事項〕

1 第17回子ども読書まつり《ほんともフェスタ》の開催について・・・・・・・・【資料 6】

会 長 :	連絡事項1「第17回子ども読書まつり《ほんともフェスタ》の開催について」を事務局より説明をお願いしたい。
図書館長 :	連絡事項1「第17回子ども読書まつり《ほんともフェスタ》の開催について」を説明する。資料6をご覧いただきたい。ほんともフェスタを2月28日から4月1日まで実施する。グリナード永山で2月28日から3月4日、その後中央図書館で3月6日から4月1日まで「ほんはともだち！」展示を行う。内容は、学校図書館紹介、おはなし会ボランティア紹介、子どもたちによる本の紹介や図書館によるブックリストの紹介コーナーなどを予定している。また、この期間にスペシャルおはなし会を各図書館で実施する。スタンプラリーとして、各図書館とおはなし会に来場した場合に、スタンプを押したりシールがもらえる企画を3月1日から31日期間で開催する。その他、イベントとして「この絵本だいすき！」として本の紹介や読み聞かせを3月29日中央図書館で行う。大人対象としては、3月28日に「現役声優が語る「伝わる声」の魔法」の講座を中央図書館で行う。これらのイベントは、TAMA るんるんの多摩市健幸ポイント事業の対象となっている。
委員 :	「TAMA るんるん」でポイントを獲得したらどうなるのか。
図書館長 :	今の時期ですと、一定のポイントを獲得して期限内に申込すると抽選で auPAY クーポンがもらえる。
委員 :	「TAMA るんるん」は、図書館だけでなく公民館など全部の事業に共通でポイントがためられると励みになると思う。
委員 :	多摩市文庫連絡協議会「この絵本だいすき！」は、チラシを別に作成し図書館や施設に置くようにしている。
図書館長 :	中央図書館のサイネージでも周知、当日の館内アナウンスでも案内している。
会 長 :	以上で、本日の報告事項は終了した。

会 長 :	引き続き、2月5日に行った大和市文化拠点シリウスへの学びあい育ちあい推進審議会委員視察の振り返りを委員の皆さんと共有していきたい。当日参加した委員から感想等をお願いしたい。
委員 :	子どものあそび場で子どもを預かってもらえるシステムが整っているのがとても印象的であった。無料の遊び場だけでなく有料の遊び場もあり、夏の猛暑時でも一日中自由に過ごせるのは大変良いと思った。
委員 :	多摩市のコミュニティセンターとは違い、料金体系が子どもの部分だけが市内と市外に分かれているものの全体的にはシンプルなものになっていた。一般の方が有料で使うスペースについても、これを考えついたのはすごいと思った。
副 会 長 :	印象的なのは説明をしてくれた方が何者であったのかということ。6団体の代表とのことであったが、どのようにして今になっているのかヒストリーを聞きたいくら

	<p>いであった。シリウスだけでなく周りの7施設との連携も非常によくとれているということで、このように俯瞰的にみられる方がいるとまとまりが出るんだと感じた。縦割りではなく、きちんと繋がっている印象であった。</p>
公 民 館 長 :	<p>10年近く経つのにまだ新しくて今時な建物だと思った。ベルブ永山も図書館を併設しているが30年経っているが、全館図書館というのはどこでも学べて施設的には魅力的だと感じた。ベルブ永山も大規模改修をひかえて様々な施設に行っているが、個人な勉強スペースやコミュニティが形成できるフリースペースが多く設置している施設が増えている。このようなニーズが今の時代に多いことをあらためて思った。ベルブ永山も多摩市のニーズをとらえながら変えられたらよいと思いながら見学した。</p>
図 書 館 長 :	<p>施設が6階建てと大きく多摩市とは比べ物にならないと思った。スペースの使い方も贅沢に広く使っていると感じた。漫画の貸し出しや有料スペースの使い方は新鮮であった。一方、中央図書館も公園内にパルテノン多摩がありホールの機能や子育てスペースのOLiveもある。多摩市にも広く見ると同様の機能もあると感じたので、この場所でできていることもあると感じた。</p>
事 務 局 :	<p>今年度は、この学びあい育ちあい推進審議会が多摩市の現状を知るということで探求の時間を設けてきた。その延長として、多摩市の社会教育施設のあり方を考えていく中で先進的な事例を実際に見ていただきたいという趣旨で今回は委員の視察を実施したところである。実際に見て感じたことを今後の審議の中で活かしていただければと思う。シリウスは、図書館と子どもスペース、ホール等の複合施設であるが、本を中心としてそれぞれのスペースがまとめられていて、とても居心地の良い空間となっている施設であると感じた。</p>
事 務 局 :	<p>料金体系について、市内・市外で料金を分けることや営利料金など多摩市では最近複雑化してきている。シリウスは確かにシンプルで良いと思った。低価格であるが収入はどのくらいなのか利用者が多いから安いのが気になったところである。今、八ヶ岳少年自然の家も料金を引き上げていく方向で検討しているが、上げない方向での良い策があるのかどうかと考えさせられた施設であった。</p>
委 員 :	<p>シリウスでは、料金を上げてトントンでマイナスはないとの説明があった。</p>
会 長 :	<p>まずは、料金が安いと感じた。有料の仕組みを取り入れていたが、これを公共がやってしまうと周辺で民間がやらなくなり、本末転倒だと感じた。安くやるのであれば、公共としてやらなければならないところをやるべきであり、全部が全部安くする必要はないと思った。便利で良いものを作っていけば良いということではないとも思う。次に、感じたことは稼働率がとても高いということ。なぜ多摩市の稼働率はそこまでいかないのかを含めて、なぜ大和市ができているのか、このポイントをしっかりと勉強した方が良いと思った。また、指定管理で民間の6社(図書館流通センター、サントリーバブリシティサービス、小学館集英社プロダクション、明日香、ポーネランド、横浜ビルシステム)を上手くまとめている。バラバラなところを有機的につなげる仕組みが上手くできていると思った。多摩市にも同じようなアイテムは揃っている。これを有機的につなげる何かソフトがあれば解決できそうな感じ</p>

	<p>がする。環境改善会議など月に1回行っているとの話であったが、このようにお互いの横の連絡を解決していくことは学ぶことが多い。お客さんをどう受け入れていくかを真剣に考えて同じレベルでやっていくことを理念も含めてしっかりと共有しているサービス業であると好感が持てた。これは、すぐにでも多摩市でできることではと感じた。最後に、小学館集英社プロダクションが引きこもりのお子さん向けのコーナーを実験的に行っていたこと。企業自体が心配なことがあるお子さんが来る場所を図書館の一角にコーナーとして作り始めていた。多摩市の公民館や図書館でも企業と上手に連携していくと課題解決ができるのではと感じた。</p> <p>今回の視察の成果を学びあい育ちあい推進審議会を出していければと思う。</p> <p>この他、事務局から連絡事項はあるか。</p>
事務局：	<p>机上に令和8年度の学びあい育ちあい推進審議会定例会の年間予定を配付している。この日程で開催する予定であるので、委員の皆様のご協力をよろしくお願ひしたい。</p>
会長：	<p>最後に令和4年度より学びあい育ちあい推進審議会委員をお勤めいただいた倉品委員がこの3月末で任期満了となることから、この学びあい育ちあい推進審議会への参加が本日で最後となる。最後に、一言お願ひしたい。</p>
委員：	<p>—（倉品委員・退任挨拶）—</p>
会長：	<p>以上で、本日の予定は全て終了した。次回は、4月27日月曜日14時から、会場はベルブ永山の教育委員会会議室で行う。</p>

(1時間30分)

(閉会時刻15時30分)

会議規則第10条第4項によりここに署名する。

令和 年 月 日

会長

委員